地域と協同の 152 号

巻頭言

<u>20</u>30年にむけて

神田 すみれ(地域と協同の研究センター会員)

私は、2002年から外国人住民サポートの活動を始め、その後、コミュニティ通訳、外国人の相談業務に携わるようになりました。その間、外国人の定住化が進み、彼らを取り巻く社会、課題も変化していきました。変化の中で彼らを取り巻く課題を解決するヒントは地域にあるのではないかと考え始めたのが、2010年頃。現在は行政等で通訳、相談・アドバイザー業務、高校・大学で教えながら、愛知県瀬戸市とその近隣地域を活動拠点とした専門家と地域住民による地域の困りごとに寄り添い解決を目指す活動(せと・おせっかいプロジェクト)、地域福祉の連携を目指す活動(さるなかとんな協議体)、名古屋市を中心とした東海地域に暮らす外国人住民のサポート(外国人へルプライン東海)、愛知県被災者支援センターを通じて外国人避難者のサポート等の活動をしています。これまでの仕事、活動の経験を通じて、「地域における多様性」という観点から2030年に向けて大切だと考える事柄のうち2点を紹介します。

① 情報へのアクセスの権利保護と多様な住民の社会参画の可能性

日本語を母語としない外国人をはじめ、高齢者、障がい者等、多様な住民が福祉や教育、行政サービス等の情報を得る・知る権利を確保するためには、発信する側の努力、工夫が必要です。住民が平等に情報を受け取れるということは、公平な判断・選択・意思決定、そして公平な社会参画へと繋がります。住民の主体的な社会参画には情報へのアクセスは欠かせません。住民の多様化が進む中、すべての人が必要な情報を受け取るために、情報発信をする側は、その伝達手段はもちろん、文字の大きさや文章の難易度、絵、動画、音声の使用、スマートフォンアプリの活用を含め、様々な努力、工夫をする責任があり、それを認識することが大切だと考えます。

②多文化対応力(CULTURAL COMPETENCY)、コミュニケーションスキルの向上

住民1人1人が多様な価値観や背景を持つ人について知識をもつこと、その機会を作ることが大切です。生き方、あり方、置かれている状況・環境等(e.g.経済状況、宗教や文化の違い、LGBTQ(性的マイノリティー)、発達障害、身体・メンタル疾患)地域には多様な住民が暮らしています。違いの存在を認識し、先入観、偏見に気が付くこと。相手に合わせてコミュニケーションの方法を柔軟に変化させ、対応できる力を、職場や地域で1人1人が身に着け実践すること。自分と異なる価値観、背景を持つ人、異なるコミュニケーション方法を持つ人を尊重し、関係を構築するスキルは今後ますます重要になってきます。多文化対応力、コミュニケーションスキルの向上は、個々人の許容力、寛容性を高め、このような市民がつくるコミュニティは多様な人が暮らしやすい地域となり、地域の強靭性(レジリエンス)の強化につながります。

多様性がもたらす潜在力を社会のリソースとし、多様性を活かした共助機能を地域の力とする。地域の寛容性、開放性、許容力を高めていくこと。そして国連の2030アジェンダSDGs (持続可能な開発目標) が掲げる「No one will be left behind (誰1人取り残さない世界の実現)」を地域から目指していきたいと考えます。

(かんだ すみれ)

コンテンツ

巻頭言2030年にむけて

神田すみれ

▶岐阜地域懇談会・活動報告

ながら梅子の家の「子ども食堂」を見学してきました

▶第11回三河地域懇談会

「豊橋生協会館へ寄らまいかん」 開

▶とうかい食農健サポートクラブ 学習会 報告

「伝統野菜を食べてみよう!~そのⅡ」

●情報クリップ・4月の活動5

※[おことわり] 研究センター4月活動は5ページに掲載しました。■企画案内 ■書籍案内・5月の活動予定

8

ながら梅子の家の「子ども食堂」を見学してきました

岐阜地域懇談会 · 活動報告

「地域と協同の研究センター・岐阜地域懇談会世話 人会」では、去る3月28日、「ながら梅子の家(うめ ごのいえ)」の「子ども食堂」の様子を見学してきまし た。当日は「岐阜健康友の会」長良支部の事務局長・ 斉藤恵津子さんに応対していただきました。以下はそ の概要です。

◆子ども食堂運営の様子

高齢者のランチサロンから、子ども食堂の取り組みにつながり、春休み夏休みに開催、この春休みで3回目。この活動は中心メンバーがいないとできない。はじめ元教員の人が、ルールを決めてやろうとしたが、そうではなく子どもたちも参加してのルールが自然に



「梅子の家・子ども食堂」の斉藤恵津子さん(左から5番目)と世話 人(2017年3月28日子ども食堂前にて)

できてきた。ここでは高齢者の方も参加していて、これも特徴的。

幼稚園と小学校にチラシを配布、3月半ばから電話による受け付けだが、民生委員や自治会へもお願いしていて、そこからの参加は予約なしで受け付けている。

◆運営資金や食材は 一回の食事代 150 円で何とか維持している。

農協さんの好意で、お米は調達できる。その他食材についても農協と相談できることに。さらに「みのった基金」で3年間20万と岐阜市からの補助が40万支援を受けることで余裕ができた。フードバンクの利用はまだない。必要に応じて「サンマート」を利用する。

◆子どもたちの様子

参加する子は、日ごろ「梅子の家」にも出入りしていて、食堂の準備や、受付、配膳なども子どもたちが行う。「いただきます」という子の当番も自然にできた。子どもたち主体の活動になっている。ただ、食事以外の時間で、二階の部屋で遊ぶときなどは、お菓子をコンビニなどで買ってきて食べている。食生活のあり方に問題があるようだ。

◆梅子の家の活動

子ども食堂委員は6人、高齢者の方の委員は10人。スタッフは基本ボランティアだが、岐阜市からの補助は人件費にということで、助かる。子どもには好き嫌いもあるし、食べない子、アレルギーの子には気を使う。でも、子どもをみているとパワーがもらえる。

お年寄りのランチ会は月2回、その運営委員会は月1回、子ども食堂の運営委員会は始める前に3回、終わったあと1回あり、モチベーションを維持するのが大変。「ランチ会」のチラシは、手配りで300枚ぐらい配っていたが、毎月入れてもらって申し訳ないので行くという人が、3年目ぐらいでやっと出てきた。広報にも載せてもらえるようになっ

た。映画会などもやっている。男性の参加者が多い。介護者のつどいでも8割が 男。親を介護、奥さんの介護などあり、また認知症の介護者も多い。

以上が斉藤さんのお話をまとめたもの。

当日は私たちもみな一緒に食事会に参加。150円で、大人でも満足できる内容でした。子どもたちは皆、早く食べろ、と言われることもなく、食事を楽しむことでできているようでした。また、企画を重ねることに、地域とのつながりが広く強くなっている、という印象でした。

「増刊・地域と協同の研究センターNEWS第6号」にも記事があり参考にしてください。



ボランティアスタッフと遊ぶ子ども (2017年3月28日)

報告:岐阜地域懇談会世話人・熊﨑 辰広(くまざき たつひろ)

第11回三河地域懇談会 豊橋生協会館へ寄らまいかん 開催

文責:伊藤小友美(事務局)

2017年4月8日(土)、コープあいちの豊橋生協会館にて、70名の参加で第11回三河地域懇談会を開催しました。「寄らまいかん」は奥三河の方言で「集まりましょう」という意味です。三河地域ではこの3年間「私たちのくらしと介護〜地域で粋な老い支度を〜」をテーマに世話人会を中心に活動をしてきましたが、その集大成として、住み慣れた地域で健康にくらすために学び、頭も体も動かし、手作りのカレーやサラダ、コーヒー・ケーキも味わう楽しい企画となりました。概要をご紹介します。

食とくらしコーナー 「健康にいい食事って?」

メーカーさんによるリレートークでは、中央製乳の村松基さん、太田油脂の小野紗織さん、節辰商店の安達秀子さんの3人の方に、ご自慢の商品についてそれぞれ熱く語っていただきました。牛乳はカルシウムを多く含み、骨・歯を丈夫にします。認知症・アルツハイマー病の予防にもなります。今話題のオメガ3についても学びました。いつ



も何気なく食べている油は質が重要です。オメガ3は人間の体内で作ることができない不飽和脂肪酸です。えごま油、しそ油、アマニ油などに含まれており、意識しないと摂取できないものです。生活習慣病予防や美肌、認知症予防に効果があります。食生活が変化している今日、健康な食生活を送るためには、だしを上手に使うことが大事です。だしが効いているとコクがあり、塩や醤油が少なくてもうまみが増します。おいしくて安心な味噌汁とご飯を基本にしたいということも学びました。

管理栄養士でコープあいちの食と健康アドバイザーとしても活動しておられる熊崎稔子さんからは、総合的なお話をうかがいました。健康寿命を延ばすために、まず認知症予防の10カ条(公益財団法人認知症予防財団)「①塩分と動物性脂肪を控えたバランスのよい食事を②適度に運動を行い足腰を丈夫に③深酒とタバコはやめて規則正しい生活を④生活習慣病(高血圧、肥満など)の予防・早期発見・治療を⑤転倒に気をつけよう頭の打撲は認知症を招く⑥興味と好奇心をもつように⑦考えをまとめて表現する習慣を⑧こまやかな気配りをしたよい付き合いを⑨いつも若々しくおしゃれ心を忘れずに⑩くよくよしないで明るい気分で生活を」の紹介がありました。次にバランスのよい食事をとることの大切さのお話がありました。ご飯、汁物、主菜、副菜の4つをとることです。魚がおすすめだが、高齢で少食になるとお肉もいいとのことでした。最後に生活習慣病を予防するためには、野菜や果物をしっかり食べるとよいとのお話がありました。



コグニサイズ

他にも「恵美子さんと直子さんのおはなしコーナー」「懐かしい歌をご一緒に」「おやつ作り」「頭と体を動かすコーナー(ほこちゃん体操・妙子さんおすすめのコグニサイズ・貯筋体操)」を楽しみました。

「学びのコーナー」では井関道夫先生の「クイズで学ぶ『食商品学』」、 高橋正先生の「粋な老い支度」の講座がありました。井関先生のお話では、 マグロと牡蠣について学び、知らないことが多いことを確認しました。高橋 正先生からは人類史上経験のない超高齢社会を迎え、孤立が広がっているこ と、社会保障制度の考えや地域包括ケアシステムについてお話がありました。

最後に、世話人の八木憲一郎さんから以下のまとめがありました。

三河地域懇談会では、3年間、地域・協同の視点で環境・福祉を考えながら、いろんな活動に取り組 んできました。それが「粋な老い支度」のテーマに収斂し、今日の懇談会になりました。具体的には、 「食べる・つながる・学ぶ」がキーワードになったように思いますが、引き続き多くの人たちが集まり、 その輪を広げていければと思います。今日はありがとうございました。

とうかい食農健サポートクラブ 学習会 報告 「伝統野菜を食べてみよう!~その॥」

文責:大島三津夫

とうかい食農健サポートクラブが企画する「伝統野菜」シリーズ第四弾学習会「伝統野菜を食べてみよう! ~そのII」を1月23日(月)20名の参加で開催しました。会場は碧南にある日本料理のお店「一灯」です。 伝統野菜を使った料理を堪能しました。献立は、**前菜**(方領大根と木の山五寸の紅白なますとタコ・蕪とあみ海老煮・知多ふき卵焼き)、**温物**:雑煮風茶わんむし(紅白しら玉・もち菜・かしわ・椎茸・銀杏)、**酢の物**(人参ドレッシング・白早生玉ネギ・ひじき・ファーストトマト・あん肝・ブロッコリー・カリフラワー)、メイン:サーモンと豆腐揚げあんかけ(八名丸里芋・スナップ・とっとき一号エリンギ・カラフル人参・柚子こしょう)、お食事:釜炊きごはん・漬物・赤だし、デザート:ヨーグルトムース(知多ふきゼリー・いちご・リンゴ・干し芋)です。彩りも豊かで、目にも舌にも美味しいお料理でした。いただきながら、3人の方にお話をうかがいました。その一部をご紹介します。

◆ 料理に使われている伝統野菜について ◆ <シニア野菜ソムリエ:高木幹夫さん 談>

ほとんどが朝採れの伝統野菜です。人参は木の山 五寸。トマトは愛知県のファーストトマト。本来は もっととがっていますが、切るとハート型になりま す。正月菜は正月しか食べないもので、「もち菜」と も言われています。多分みなさんの食べるのは、ほ とんどが小松菜です。もち菜は葉っぱが下からでま す。小松菜より色が薄いです。愛知早稲ふきは10 0年前に見つかったものです。必ず曲がる方領大根 ですが、5年目の種でつくったら、まっすぐになっ てしまいました。ただ先は細くなりました。葉っぱ が多く、太さがわかりません。出荷がしにくいもの です。旬のタマネギは、愛知白早生です。白いタマ ネギで、知多半島でできたものです。エリンギは、 必ず使ってもらっています。日本で初めてつくった のが愛知県です。愛知県の森林研究センターで開発 されました。できた最初の名前が、「エリンギとって おき1号」。今ではなまって「とっとき」になりまし た。これを食べるとほかのものが食べられなくなり ます。なかなか手に入らないもので、食べられるの はこの店くらいです。実は、新宿伊勢丹の地下1階 のみで売っています。

◆ 料理のお話 ◆

<日本料理「一灯」店主:長田勇久さん 談>

卵焼きの中にふきが入っています。上に乗っているのが、ふきの佃煮です。ふきのしゃきしゃき感と 葉っぱの独特な風味を味わってほしいと思います。

もち菜は、雑煮風の茶碗蒸しに使いました。

ドレッシングに白早生玉ネギを使っています。白いというのは知多だけの貴重なものです。

メイン料理の揚げあんかけには、とっとき一号エリンギと八名丸里芋を使いました。八名丸はとても

デリケートです。

トマトはファース トトマトです。時期に ならないと、しっかり とがりません。

漬け物にも方領大根を使っています。葉っぱが特徴なので、葉っぱも漬け物にして



メイン料理

います。いろんな伝統野菜をつかったお料理をお楽しみください。

白玉の赤い方には人参を練り込んでいます。

人参ドレッシングの材料は、白醤油、オリーブオイル、酢、砂糖を少しと人参と白早稲玉ネギです。

◆ 白たまり のお話 ◆

<日東醸造株式会社社長:蜷川洋一さん 談>

祖父の代から90年、ここで白しょうゆをつくってきました。発祥の地と言われています。

醸造文化の豊かなこの地域は、日本中から見ても おもしろいと思います。特殊で多様、狭い地域に様々 な醸造がつめこまれています。

歴史的にいちばん古いのは八丁味噌に代表される 豆味噌です。米こうじを使わず、大豆と塩と水だけ でつくります。その次がたまりしょうゆです。地元 のおばあちゃんは、しょうゆと言いません。たまり は、豆味噌をしこんだ桶にたまったものが始まりで す。6百年の歴史があります。明治になるころに、 白しょうゆがここで生まれました。現在碧南市内に 白しょうゆ屋が3社あります。私どもは、白たまり の仕込みを足助の山奥、そこの井戸水を使ってして います。お料理によって、たまりと白しょうゆを使 いわけると食卓が豊かになります。地域の食文化を 考える機会になればと思います。



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半型 定面頒画
▶地域社会問題解決への 生協の取り組み	特集 地域社会問題解決への生協の取り組み <コープのある風景> コープかがわ <こんにちは!生協女子ですっ!> 生協コープかごしま 松本広香さん ★新連載<地域に愛される店づくり・人づくり>	2017年 4月 A4版 36頁
***************************************	大阪いずみ市民生協 コープ岸和田 <私の本ナビ> コープいしかわ	定価360円
N A V I 2017. 4 No. 781	★新連載<エッセイ わな猟師の春夏秋冬> 千松信也<宅配・現場レポート> 日本生協連<生協大好きママ コプ山さんの 教えて! CO・OP商品>	
日本生活協同組合連合会	CO・OP大きなご馳走えびフライ <日本全国ふだんのくらしを支えたい> エフコープ <想いをかたちにコープ商品>コープ化粧品「コープ基礎シリーズ」	
	<☆突撃☆あなたの町の組合員活動> コープあいち <明日のくらし ささえあうCO・OP共済> みやぎ生協 生協協立社 コープふくしま	
	<この人に聴きたい> 俳優 音楽家 三咲順子さん <ほっとnavi> コープこうべ コープさっぽろ <コミュニケーション広場>	
▶護憲派による 「新九条論争」	STOP THE WAR! 護憲派による「新九条」論争 FOR READERS 護憲派が九条を議論する場を作りたい	2017年1月 A5版
社会運動 2017. 1	憲法九条を巡る「解釈改憲」の歴史 「新9条」を創る 映画作家 想田 和弘 国民投票は九条を甦えらせる ジャーナリスト 今井 一 憲法は魔法の杖ではない 弁護士 伊藤 真	136頁 定価1,000円 (税別)
No.425 市民セクター政策機構	改憲の中身こそ議論すべき 衆議院議員 辻元 清美 九条は立憲主義の原理を示す 法政大学教授 杉田 敦 九条を巡る基本用語集	
	「はみの列島 日本を語り伝える 第2回 花咲く南房総に戦跡を訪ねて ライター 室田 元美 おしどりマコの知りたがりの日々・レッツ想定外! 第5回	
	社会運動には笑いの技術が有効でしょ 芸人・記者 おしどりマコ 道場親信さんが託してくれたもの 『「戦後日本の社会運動」と生活クラブ』刊行によせて	

地域と協同の研究センター 4月の活動

4月1日(土) 政策提言チーム会合

4月8日(土) 第11回三河地域懇談会

4月10日(月) 常任理事会

4月13日(木)名市大寄付講義①

4月14日(金) 研究フォーラム「地域福祉」、「食と農」世話人会

4月17日(月) 尾張地域懇談会世話人会, 岐阜地域懇談会世話人会

4月18日(火) 2017国際協同組合デー企画相談会 4月20日(木)名市大寄付講義②

4月21日(金) 生協の(未来の)あり方研究会63回

4月22日(土) 第5回理事会

4月27日(木)名市大寄付講義③

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半型 定面流通面
	スゴイ農業 スゴイJA	0017年
	JA自己改革の現場から	2017年 4月
▶JA自己改革の現場から	①ブランド確立にかけた熱意	A4版
	ーJAグループ佐賀の取り組み 竹中明洋	48 頁
	②地域密着の直売所が農業の大切さを伝える	年間予約
	一JA東京中央の取り組み 吉永 沙矢佳	5,109 円
	農政トピック 30 年産以降の水田農業を考える	(送料・消費税込)
	50 午度以降の水田晨来を考える 「29 年産水田農業にかかる J A グループの取組方針」と	
月刊JA	30年産に向けた取り組み・課題 JA全中 農業対策部	
	きずな春秋 一協同のこころ— 童門冬二	
2017. 4	私のオピニオン 姜 尚中	
vol. 746	JAトップインタビュー	
全国農業協同組合中央会	農業所得の増大を通し自己改革を進める 塚本治男 (茨城県JA常総のかり代表理報合長) 協同組合の広場(日本生協連 JF全漁連 全森連 全国中央会)	
	展望 JAの進むべき道	
	全ての課題は現場にある 奥野長衛(JA全中会長)	
	海外だより [D. C. 通信] 連載 71	
	トランプ新大統領の就任と通商政策に関する優先事項 中村岳志	
	第46回 日本農業賞	
	JA実務講座	
	会計・監査実務 尾田智也	
	民法実務 小川清一郎	
	現代契約法—労働契約— 遠山信一郎	
	JA理事・経営管理委員のための基礎講座 服部夕紀	
	J A 税務相談 平野秀輔	
	■巻頭言・謙虚な経済学 生源寺眞一	2017年
 ▶生活の中の法律	▶特集 生活の中の法律―総合法律支援制度開始から 10年―	4月 64頁
一総合法律支援制度	総合法律支援制度の意義と課題	B5版
開始から10年—	一地域と連携したネットワーク型支援と生協の可能性ー 佐藤岩夫	D3/IX
	司法ソーシャルワークについて 太田晃弘	
	判断能力の不十分な消費者の支援	
************	──イギリス法からの示唆──	
	信負有の権利夫党における信負有団体の大党 機能に 生協の生活相談・貸付事業について 山崎由希子	
生活協同組合研究	コラム1 コーペラティブ・グループの法律サービス事業への参入と功罪	
2017. 4 Vol. 495	池永知樹	
	コラム2 消費者教育と法教育をどう切り結ぶか	
公益財団法人	一消費者市民社会形成の視点から― 橋本康弘	
生協総合研究所	■時々再録	
	だし活の隠し味白水忠隆	
	■本誌特集を読んで(2017・2) 杉原里美・毎田伸一	
	■私の愛蔵書	
	佐藤さとる・作 村上勉・絵『だれも知らない小さな国』 三枝みさ子	
	■研究所日誌	
	●新刊のご案内 生協総研レポート No.84	
	●公開研究会	
	生協論レビュー研究会報告(東京・中野 5 / 15)	
	組合員参加と購買活動の相互関係を解明する(神戸5/30)	

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半型 定面頒通
	農協組合長インタビュー(37)魅力ある農協づくりのための自己改革	
#11 1 m	岩瀬治三郎	2017 /=
▶農協攻撃に負けない	農協攻撃に負けない事業展開を	2017年 4月
事業展開を	第8次中期事業計画及び平成29年度事業開始に当たって 山田 尚之	B5版
	日本福祉大学二木教授出版記念インタビュー	80 頁
	医療・社会保障政策の最新動向を包括的かつ複眼的に分析 二木 立	文化連帯編集部
	二木教授の医療時評(146)	03-3370-2529 *注
*****************	介護保険法等改正案を複眼的に読む。 二木 立	
文化連情報	組合員参画の実践に学び、単協・厚生連が自己改革で連携を 東 公敏	
2017. 4	<新連載>現代社会と協同組合(1)農協法「改正」から協同組合解体へ	
No. 469	北出俊昭	
日本文化厚生農業協同組合	アメリカの医療制度(7)	
連合会	医師不足の現状とメディケア診療報酬制度の改革 髙山 一夫	
	韓国農業の実相―日本との比較を通じて(8)米産業発展対策―その2	
	品川優	
	臨床倫理メディエーション (11)	
	臨床事例における倫理と意思決定―がん事例からみる 中西 淑美	
	知多厚生病院栄養科の取り組み(上)	
	生活改善支援センターで健康支援活動 伊藤美香利 世帯はないとないませんが はんだけ しょうしゅう はんだい かんしょう はんだい かんしょう はんだい しょうしん またん 世界 はんだい しょうしゃ はんしょう はんしょう しょうしゃ かんしょう しょうしゃ しょうしゃ しゅうしゅう	
	農業における地熱発電の熱水利用一岩手県八幡平市の事例 大平 佳男	
	平成29年度厚生連院内感染予防対策研修会を開催するにあたって	
	自らが感染予防対策の手本となるように―【基礎】研修会に参加して	
	選田 恵子 病院や地域に感染予防対策を浸透させたい―【アップトゥデート】研修会に参加して	
	病院や地域に懸発す的対象を侵ዄさせたV ─ 【ノッノトワケート】 研修芸に参加して 山田 裕輔	
	日日 日日 日日 日日 日日 日日 日日 日	
	森川 静香	
	岡田玲一郎の間歇言(141)	
	ズバリ、回リハの休日加算廃止論 岡田玲一郎	
	デンマーク&世界の地域居住(95)オランダの「自由」と「忍耐」	
	松岡洋子	
	熱帯の自然誌(13)マレーの虎 ハリマオ伝説	
	安間繁樹	
	イギリスの社会的企業 社会的家主:Gentoo(1)SHCAとの連携	
	小磯明	
	●野の風●	
	気分を変える? 魔法の香りとの出会い/大道瑞穂	
	◆平成29年度厚生連院内感染予防対策研修会 開催のお知らせ<基礎・中級>	
	□DVD紹介	
	fire in the blood 薬は誰のものか/小磯 明	
	▶線路は続く(109)	
	春びより 小湊鉄道 / 西出健史	
	▶最近見た映画	
	わたしは、ダニエル・ブレイク/菅原育子	

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(◆)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。



四日市市制120周年記念 四日市公害訴訟判決45周年記念

市民による手づくりミュージカル劇

四日市ラプソディーその海と空と-

<ストーリー>それは、いのちの物語。地球上で40億年という生命の歴史に、いま何が起きようとしているの か。水の精に守られながら、伊勢湾の魚たちが元気に登場し生を謳歌します。しかし戦争の足音が近づいてき ます。やがて戦争が終わり、鯨船の祭も復活します。四日市では巨大なコンビナートが建設されます。漁師、 子ども、市民が登場し、コンビナートのマジックショーが繰り広げられます。素晴らしい未来が約束されるは ずのコンビナートでしたが一。臭い魚、空気、そして喘息が四日市に襲いかかります。夫婦と幼い3人の幸せ な家庭では、夫が喘息を発症。この家族はどうなっていくのか…。実話による家族の物語。

日時 7月1日(土)14時開演・18時開演 2日(日)14時開演

会場 四日市市文化会館 第二ホール

入場料 高校生以上2000円(当日2200円) 小・中学生1000円(当日1200円) ※未就学児は託児を申し出てください 申込締切6月20日 日時指定・全席自由席

制作:四日市ラプソディ実行委員会 原作: 粟屋かよ子

主催;四日市ラプソディ実行委員会 協賛:四日市公害患者と家族の会

チケットの取り扱い:四日市市ラプソディ実行委員会 Tht.090-7435-3420 (粟屋)

四日市市文化会館 151059-354-4501

書籍案内



続・下流老人 一億総疲弊社会の到来

著者:藤田 孝典 出版社:朝日新聞出版 定価:821円(税込) 発売日:2016年12月13日 サイズ:新書判並製240ページ

内容:下流老人は、過労老人へ一「死ぬ直前まで働く」社会がはじ まる!! 間近に迫った「一億総老後崩壊」。それに抗おうと、必死に 働く高齢者。思い描いた老後は消え、体も心も極限まですりへる社 会がおとずれる。「年収400万でも将来、下流に!?」というショッキ ングな内容で、老若男女、全世代から反響のあった前著から1年半。 本作では、「高齢者の労働と貧困」をテーマに、日本人の9割が他 人事ではない「死ぬ直前まで働く」現実を報告する。

そのうえで、前著の反省をふまえ「どうすれば下流化しないか」 という "解決策"を徹底的に書いた。明らかに深刻化する日本の老 後、一億総下流化を防ぐには、もうこの道しかない!

(本書でいう下流老人とは「生活保護基準相当で暮らす高齢者、お よびその恐れがある高齢者」のことである)

朝日新聞出版ホームページより

2017年4月25日発行(毎月25日発行) 定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 西川幸城 〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com http://www.tiiki-kyodo.net/

地域と協同の研究センター5月の活動予定

5月11日(木)名市大寄付講義④

5月12日(金)三河地域懇談会世話人会

5月17日 (水) 常任理事会

5月18日(木)名市大寄付講義⑤

5月22日(月) NEWS編集委員会

5月25日(木)名市大寄付講義⑥

5月27日(土)第17回通常総会・総会シンポジウム

5月29日(月)くらしを語りあう会